
 学 会 記 事

第 245 回新潟循環器談話会

日 時 平成 17 年 12 月 10 日 (土)
午後 3 時～6 時
会 場 新潟大学医学部 第五講義室

I. 一 般 演 題

1 脳卒中時の心筋障害について…ラット脳虚血再還流モデルを用いた検討

文 娟・国崎 恵・水戸沙耶佳
馬 梅蕾・T V Punniyakoti
G. Narasimman・P.S. Suresh
Paras Prakash・Fadia K. Ali
Reyad A Elbarbary・渡辺 賢一
新潟薬科大学薬学部臨床薬理学

【背景・目的】脳卒中は自律神経系を変化させることが知られ、心臓血管機能へも影響することが推定される。今回の研究目的は、ラット両側頸動脈閉塞 (BCAO)・再灌流 (IR) 時の心臓障害を検討することである。

【方法】SD ラットを用いて脳虚血再還流モデルを作成した。血中・心筋内ノルエピネフリン (NE) 濃度、心筋の活性酸素 (グルタチオンペルオキシダーゼ・たん白カルボニル基及び誘導性一酸化窒素)・アポトーシス・p38 分裂誘発物質活性化型たん白キナーゼ (MAPK) 活性を脳虚血再還流群 (Group-IR) とシャム群 (Group-N) とで検討した。

【結果】Group-IR では血圧・心拍数・ノルエピネフリンの上昇が見られた。2, 3, 5-triphenyletrazolum chloride (TTC) 染色における非染色範囲の増加がみられ、さらにグルタチオンペルオキシダーゼの減少・たん白カルボニル基及び

誘導性一酸化窒素シンターゼ反応増加が見られた。p38 MAPK 活性は著しく上昇した。

【結論】脳虚血再灌流モデルでは心障害が見られ、交感神経系・p38MAPK シグナル・酸化ストレス誘導などが関連すると推定された。

2 ボセンタンが有効であった原発性肺高血圧症の 1 例

江村 重仁・田川 実・中村 裕一
大倉 裕二*・小玉 誠*・相澤 義房*
長岡中央総合病院循環器科
新潟大学大学院医歯学総合研究科
循環器分野*

症例は 73 歳女性。鬱血性心不全、慢性腎不全の診断で当院腎内科通院中であったが、平成 14 年 12 月肺炎併発後より呼吸困難の増悪を示し当院呼吸器科受診。原因不明の慢性呼吸不全の診断で在宅酸素療法も開始されたが、症状が次第に増悪した。平成 17 年 7 月の心臓超音波検査 (UCG) で著明な右心系の拡大と肺高血圧 (三尖弁よりの推定 PG = 60.0mmHg) を認め当科紹介受診した。当科受診時 NYHA IV° の状態で、起座呼吸の状態であった。当初疑われた肺実質疾患はその後の画像診断より否定的で、膠原病の合併を認めず、UCG および各種シンチグラムより他の心疾患の可能性も否定的であった。右心カテーテルでは PCW = (5), PA = 80/28 (57), RV = 82/EDP 7, RA (2), C.I = 1.93 で原発性肺高血圧症が考えられた。安静と内服薬の調整で症状の軽度改善を認めたが依然呼吸困難著しく、当初プロスタサイクリンの持続点滴も検討したが、高齢でもありボセンタンの内服治療を開始した。通常の開始量の半量 (31.25mg/day) より開始し、状態を診ながら漸次増量した。その後、次第に自覚症状の改善を認め、酸素なしでトイレ歩行が可能な状態まで改善した。最終的に 135mg/day まで増量を行ったが、肝機能障害の増悪等副作用を認めず、UCG で右心系の拡大の改善と肺高血圧の改善 (PG = 60.mmHg → 25.2mmHg) を認め、平成 17 年 9 月当科退院した。ボセンタンの内服治療によ